

はじめまして、「情報ボックス」です！

『情報ボックス』は、幼稚園や小学校・中学校・高等学校の先生方が、肢体不自由のある子どもの基本的な情報をお知らせしていきます。どうぞよろしくお願いいたします。

本校では、児童・生徒理解の一環で、養護教諭を中心に健康観察の研修を行っています。また、児童・生徒の安全な学校生活のために健康観察が大切であることを全教員で確認しています。今回は、その研修内容の一部「児童・生徒の健康観察」を紹介します。

西淀川特別支援学校 研修資料「児童・生徒の健康観察」より

## なぜ健康観察が必要なのでしょう？

障がいのある児童・生徒は、心身の異常を明確に伝えることができない場合が多く、また感覚のまひや知的障がいのために痛みや苦痛を感じにくいことがあります。そのために学校生活のあらゆる場面での確に健康観察を行い、児童・生徒の健康状態を把握することが大切です。

## 何に気を付ければ？健康観察のポイントとは？

### ①健康観察は毎朝・毎日

体調の悪い時だけでなく、普段から毎朝、登校時には健康観察を行い、体温・呼吸など各々の子どもにとっての「正常な状態」を把握しておきましょう。

### ②継続的な観察と引き継ぎ

朝の健康観察で気になる点は、時間をおいて継続的に観察しましょう。(休み時間・給食・下校前など)教科や時間割によって教員が代わる場合にも、必ず具体的に伝えるようにしましょう。

### ③生育歴や保健調査票を参考に

健康観察では、生育歴や保健調査票などから得た情報をもとに、一人一人の観察のポイントを考慮しながら行いましょう。

### ④「いつもとは違う」という気づきを大切に

体温やSpO<sub>2</sub>(※)など数値で測れるもの(小・中学校等でSpO<sub>2</sub>を測定することはあまりませんが)だけでなく、教員の「いつもと違う」という気づきが大切です。反対に、児童・生徒にとっては「いつも顔色はよくない」「SpO<sub>2</sub>はいつも低く、呼吸はいつもしんどそう」という子もいますが、悪いことに慣れてしまい、体調の変化を見逃すことのないようにしましょう。

※SpO<sub>2</sub>は、動脈血の酸素飽和度のことです。パルスオキシメーターという機器で計測します。呼吸の状態を知るために使い、脈拍も合わせて表示されます。

### ⑤複数の目で観察を

健康観察の結果、「いつもと違う」と感じる事があれば、一人で判断せず、教員同士で声をかけ合い、保健室に連絡するなど、複数の目で観察しましょう。

### ⑥保健室と連携を

養護教諭は、入学当初からの数年間の変化を見てきています。また、保健室には、主治医や保護者から得た一人一人の健康に関する情報があります。健康観察の結果、気になること・心配なことがあれば、必ず保健室にご連絡ください。

### ⑦保護者と連携を

健康状態の把握に必要な情報は、連絡帳等で毎日、家庭と情報交換します。また、不明な点や気になる点があれば連絡をとって確認しましょう。

おわりに・・・

さて、いかがでしたか？障がいのある児童・生徒を理解し指導していくため大事な情報のひとつとしてお役に立てていただければと思います。